



最期を迎える場所として

日中は暑さが残っていますが、朝夕はようやくしのぎやすくなってきました。近年は台風による大雨により、各地で土砂災害や洪水などの被害が出ています。最近も交通機関も麻痺するなど、様々な影響が出ていますが、少しでも復旧がすすむことで皆様が安心して生活できますようお願いいたします。

朝日新聞の「be on Saturday」の4面に掲載されている「それぞれの最終楽章」を長く担当されている方が、2024年8月24日に「人生の最期は自宅で迎えたい？」をテーマに記事を書かれておりましたのでご紹介いたします。

厚生労働省が2022年に実施した意識調査によると、国民の43.8%が「自宅で最期を迎えたい」と希望している（病気で治る見込みがなく、およそ1年以内に徐々に死に急いで死に至ると考えた時）。だが、22年の死亡者のうち自宅で死亡した人の割合は17.4%で、64.5%は病院で亡くなっている。…とありました。また、beモニターが行った「最後の場所」についてアンケートでは「人生の最後は自宅で迎えたい？」で「はい」が44%、「いいえ」が56%と自宅を望まない方が12%も多くなっているのです。

「いいえ」の理由としては、自宅は家族に負担がかかる・最後まで安心して医療を受けたい等が挙げられており、どこで人生の最期を迎えたいかは病院・場所にはこだわらない等でした。「はい」の理由は、住み慣れた場所だから・延命はせずに自然のまままで逝きたい等が挙げられており、人生の最期に希望する内容を記入する事前指定書を書いている人は12%、延命などについて家族と話し合っている方は37%と、事前に準備されている方は非常に少ないことが見て取れます。

シャローム横浜では入所時に今後のご意向を確認して書面に記入していただき、体調変化時にも繰り返し再確認しています。その意向に基づいて看取りケアを行っており、年間15名前後が施設での看取りとなっています。今後も「あったかいが いいね」と感じていただける場としてご本人の要望と残されるご家族の気持ちに寄り添い、努力を重ねてまいりたいと思います。

「あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわちわたしにしたのである」マタイによる福音書25章40節

施設長 高原 信夫

みんなで歌おう

4階フロアには歌が好きなご利用者が大勢いらっしゃいます。毎日、5名ほど集まって歌を歌っています。実際にリハビリテーションの1つに「音楽療法」があるように、歌や音楽には人を癒したり、元気にしたりする力があるといわれています。



歌うことによる効果は次の通りです。

- *心身が活性化される
- *声を出すことでストレスが発散される
- *心肺・口腔機能が改善される
- *レベルが高まって生活リズムが整う

特に、歌が好きなご利用者にとっては、いろいろな歌手のお話が出来て「歌えて楽しかった」「参加できてうれしかった」「〇〇さん、歌が上手」と話され、毎回楽しまれています。

4階副主任 ムハンマド アムリン

第290号

令和6年9月15日発行
(毎月1回15日発行)

責任者:施設長 高原 信夫
〒241-0802
横浜市旭区上川井町 1988
社会福祉法人
アドベンチスト福祉会
シャローム横浜
☎045-922-7333

編集委員
荒金・石川・石橋

<https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/>





看 取 り で 思 う こ と

シャローム横浜では長年「看取り」に取り組んでおります。そして今もお看取りを続けさせていただいております。

お一人、おひとりの最期の時をご家族と共に職員は過ごさせていただいております。ご家族にとって大切なお父さん、お母さん、ご家族。その思いを紡ぎながら、時が近づくにつれ身を切るご家族の想い。

お別れがあった時、私たちは振り返りを行っています。自分たちは出来ていたのだろうか。これでいいということはなく、常に至らないことを反省いたしております。

穏やかに逝く最期。お看取りにご家族の後悔が残らないこと。私たちが一番心にかけていることです。

そして私たち職員一同、ご利用者がご長寿をまっとうしていただけることを願っております。

介護支援専門員 富樹 建美



ピザ パーティー 🍷



9月1日は、栄養課主催行事でピザパーティーを開きました。入居者の皆さんは、焼き上がったピザを美味しく召し上がっていました。

ピザの種類は、夏野菜たっぷりシーフードピザと照り焼きチキンピザでした。

10月の行事は、屋台ラーメンと杏仁豆腐、餃子を予定しています。

栄養課課長 小寺 秀偉



兄弟だけに挨拶をしたからとて・・・

第198回 チャプレン 上前 至

最近、ちょっとした心温まる経験をした。それは時々、私は朝早い時間に家の周り（といっても周囲4キロ弱の距離）を散歩することであるが、その時に全く見知らない人からニコリと挨拶を受けたことである。「おはようございます。」それだけのことである。しかし、私はそのことだけで、その日、一日、心温まる思いをして過ごす事ができた。それは何故か？その方は外国人の女性であった。犬を連れていた。私の住まいは横須賀なので、その方もおそらく米軍関係の人かもしれない。言ってみれば、全くの他人である。しかし、その方は全く知らない日本人の私にニコリと微笑み、挨拶を交わしてくださった。文化の違いかもしれない。日本人の私たちには、全く知らない人に道端であつたぐらいで親しそうに挨拶するような習慣や文化が無いのかもしれない。それでも

私は人として、全く知らない他人にもニコリと挨拶して下さったことに嬉しく心温まる気持ちになった事だけは間違いなかった。

そしてその時、ふと思い出したのである。それは私が40年ほど前、米国留学を終えて家族と共に家内の実家がある高知に帰国した時に、それはその土地柄にもよるかもしれないが子供達が近所に出かけた時に、たくさんの見知らない方々にもニコリと挨拶した時、近所の方々から驚かれたことである。ビックリされたが、しかし、挨拶された方々からは、誰もいやな思いを抱くことはなく、苦情をいつてきた方々もいなかった。私は思う。人として心温まる挨拶は大切にしていきたいということ。

【マタイ5章47節】

